

覆いをかけて栽培した茶のストレスを 軽減させる栽培法

近年、高品質な茶をより多く収穫するために、簡易な覆いを行う栽培が府内の茶園で拡大していますが、それに伴い茶の樹勢低下と収量減少が問題となっています。これは覆い栽培の繰返し(2回/年)で生じるストレスが原因と考えられます。そこで、覆い栽培した茶のストレスを軽減する栽培法を検討しました。



覆い栽培 (被覆栽培)

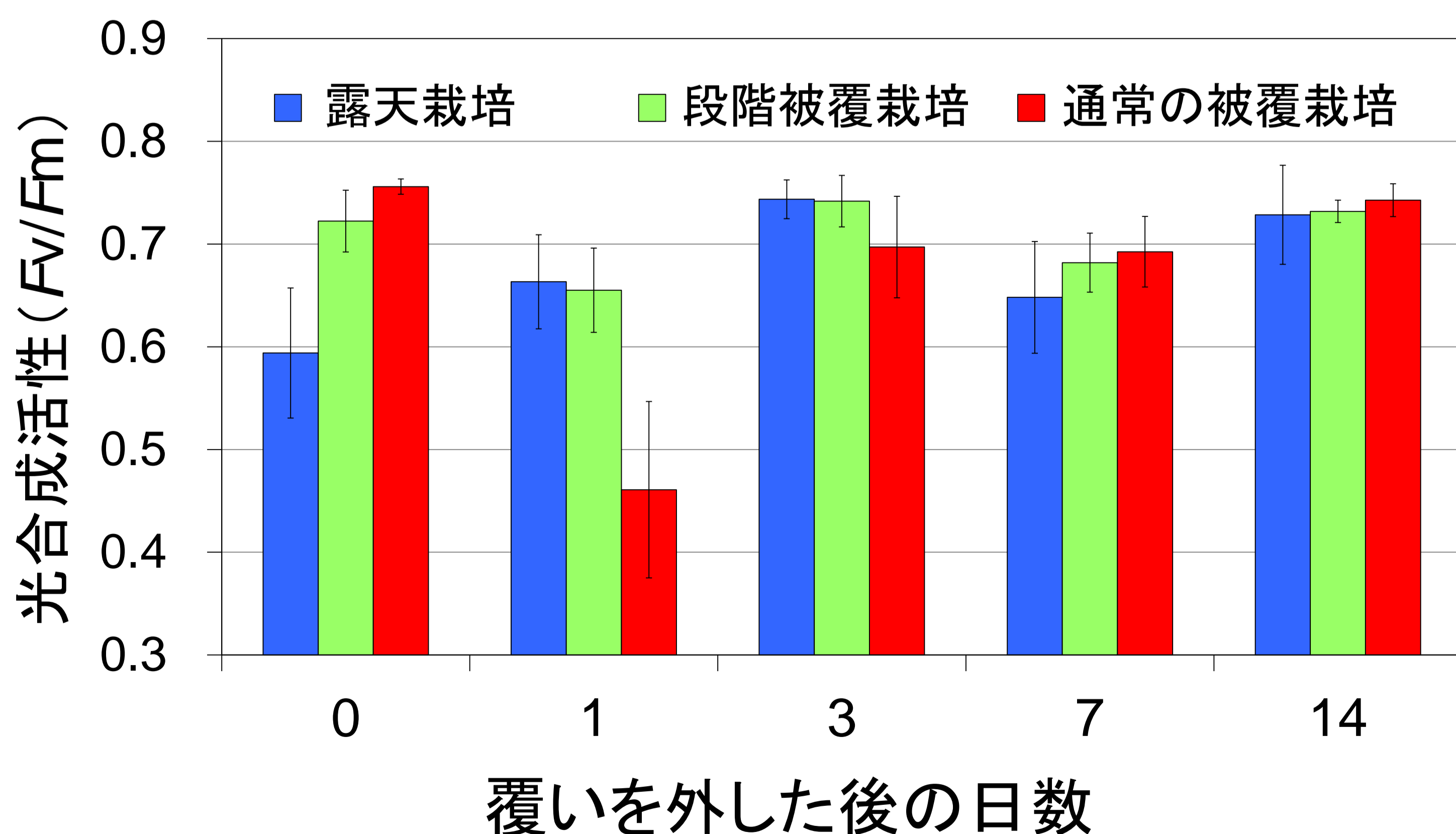


通常の栽培 (露天栽培)

覆いをかけて栽培すると茶の品質が向上しますが、収穫時に覆いを外した後、茶は一時的にダメージを受けます。

被覆方法の改善(段階被覆栽培)

遮光率:85% → 遮光率:40% → 被覆終了



覆いを外す前に遮光率を変えて栽培し(段階被覆栽培)、茶を光に馴化させると、ストレスを軽減できました。

今後この手法によって収量減少を抑えることができるかどうかを調査し、樹勢低下を回避する栽培法の検討に役立てます。